

岡山観測所の広報活動

岡田隆史

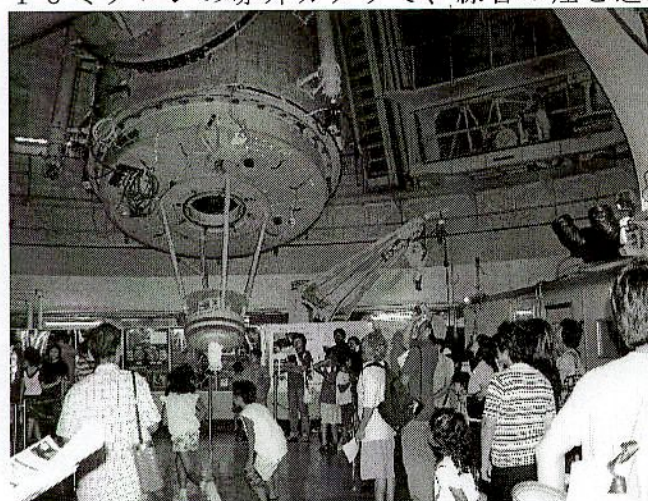
1) 施設の特別公開

岡山天体物理観測所では、開所から42年が過ぎ、今まで多くの研究成果を出して参りました。今年は広報活動の一環として施設の特別公開を8月24日に行いました。公開施設は36吋と74吋でドーム内には、それぞれの研究成果をパネルで紹介いたしました。

見学順路も、今年から74吋は東玄関よりドーム内に入り西玄関より退出の一方通行にしたため、狭い階段での混雑もなく流れがスムーズとなりました。

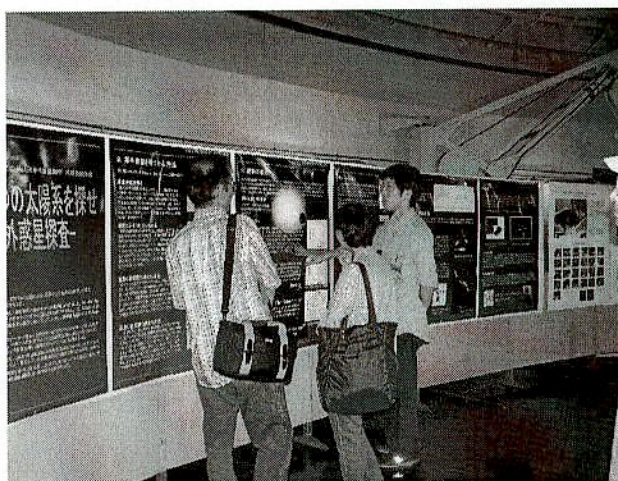
今年のテーマは、『もう一つの太陽系を探せ(系外惑星探査)』というタイトルで岡山観測所の取り組んでいる研究成果をパネルで紹介し、質問者には太陽以外の恒星から惑星を見つけ出す方法、惑星検出の難しさなど、研究者自身が説明いたしました。その他、観測装置の現物展示、望遠鏡の構造説明図、観測所の置かれている環境の変化、都市光の弊害、等々をパネルで紹介し説明に努めました。

中でも近赤外観測の煙を使った実験は大変受けたようでした。これは、普通のカメラと、10ミクロンの赤外カメラで、線香の煙を透明なアクリルの箱の中で焚きその向こう側に



にある線香の火を同じ位置から映し出すもので、赤外カメラでは箱内に煙が充満してもいつまでも火が見えているのに、可視のカメラではすぐ見えなくなると言う実験では見学者は一様に驚いていました。

ポインティングデモを見る見学者
時間を設けました。見学者には整理券を配り一度に見学する人数を20~25人とし、三度に分けて見学していただきました。見学方法は、ミラーカバーを開けた状態で、望遠鏡を南に倒し、ドーム内側のベランダに一列で上がってもらい、ドーム回転を行って端まで



説明を聞く見学者

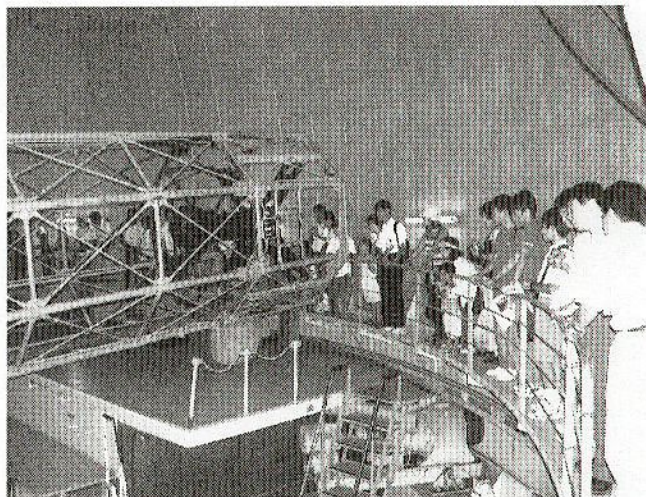
望遠鏡は定期的に、計算機制御によるポインティングデモを行い見学者は、望遠鏡とドームが連動で動く様子を見て大変驚いていました。また、小さな子供たちには、自分でコントロールデスクから操作させてドームを動かすことも行いましたが、結構楽しんでいました。今回は初めての試みとして、主鏡の見学を取り入れ、見学

時間を設けました。見学者には整理券を配り一度に見学する人数を20~25人とし、三度に分けて見学していただきました。見学方法は、ミラーカバーを開けた状態で、望遠鏡を南に倒し、ドーム内側のベランダに一列で上がってもらい、ドーム回転を行って端まで

行ったら戻る方法で行いました。見学者は、初めて見る日本一大きな鏡を覗き込み、見えなくなるまで眺めていました。

ドーム一階の西玄関では、ペーパークラフト会場を設け、電波の阪本成一氏の応援を得て74吋や36吋の模型や、すばる望遠鏡、野辺山の電波望遠鏡の模型制作を行いました。制作に熱中する小さなお子さんの姿も多く見受けられました。

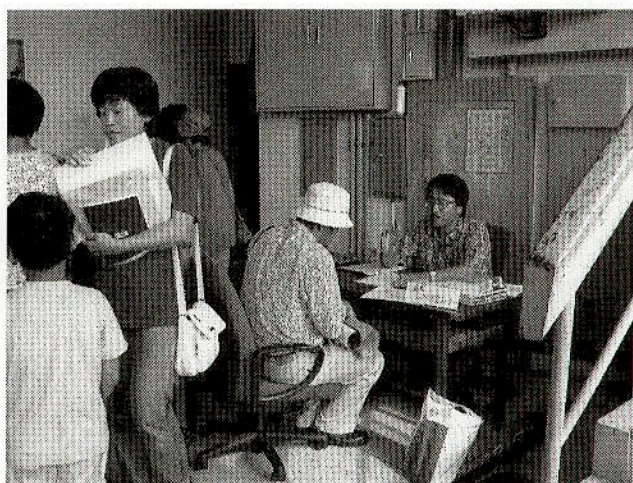
またその近くに質問コーナーも設けました。



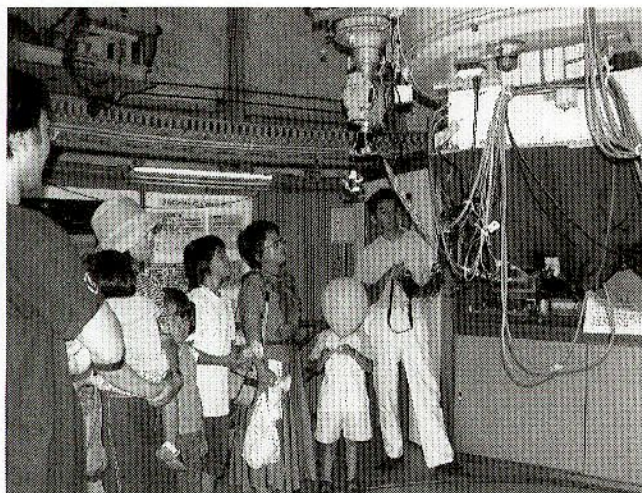
主鏡見物の様子



ペーパークラフト会場



質問コーナー



36吋での見学の様子

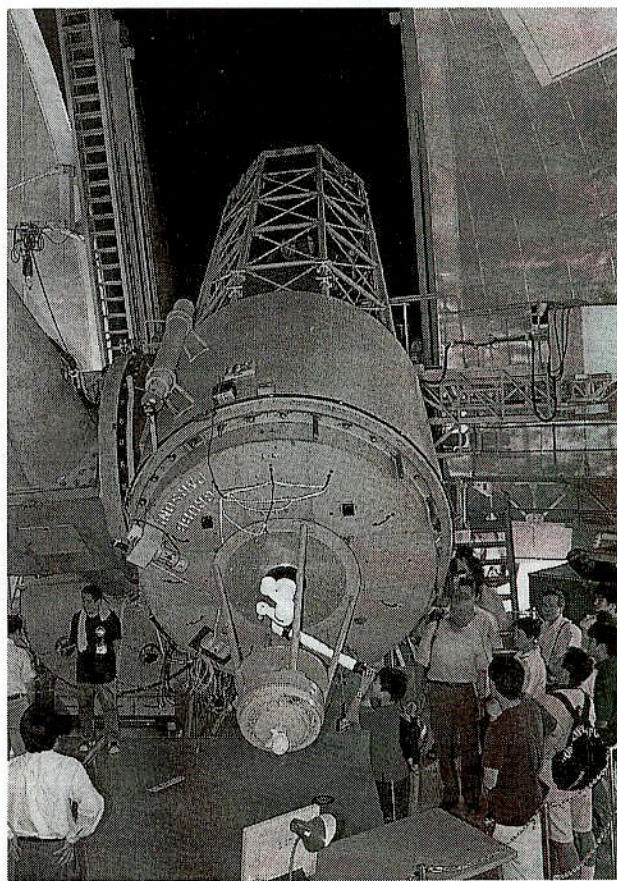
36吋では、観測中の研究者の応援を得て、装置や研究内容の説明をしました。研究者から直接説明してもらって大変良かったと好評を得ました。また小さい子供さんには星の絵入りの風船を配りましたが、イベントらしくて良かったと喜ばれました。

2) 特別観望会

この催しは年1～2回、観望会に参加できる距離におられる方々を対象に、特別公開の時と同じくOAOのホームページを始め、広報誌・新聞・TV・ラジオなどマスコミを通じて案内を流し、観望希望者を募集するものです。往復ハガキに所定の事項を書き込んでいただき、応募者多数の場合は抽選を行い、観望時間の関係から観望人員を100～150名に限らせていただいています。観望時期としては、見栄えの良い惑星の位置により決定しています。あらかじめ開催時期を決めてプログラム委員会に提出し、承認されて初めて観望会についての準備に取りかかっています。準備については、特別公開のようにドーム内など会場の準備は必要ないものの、夜間とあって危険な箇所はロープや鎖、装置類には覆いをするなどの手当を行っています。

当選された観望希望者には、バスで観測所まで送り迎えをしています。

職員の役割：夜間でありドーム内での注意が特に必要で、望遠鏡のポインティング担当者、星を覗いている方への説明者の他、観望のため昇降床を上げることから、転落事故を防ぐため見張りに多くの職員を必要とし、皆それぞれが受け持ちを決め全員が注意を払うシステムとなっています。その他バスでの送迎に二名、博物館でのお話有一名と構内には警備の方々、本館での電話の対応、救護など当日は博物館を含め全員出勤しての招待となっています。



特別観望会の様子

3) 小学生の見学会

この行事は、小学校4年生から天文についての学習が始まるのにあわせて、天文台のある近くの町役場の教育委員会に声をかけ、子供達に天文台の見学をしていただくという試みで昨年からはじめたもので、手始めに鴨方町の3小学校の4年生を対象に見学会を始めました。招待する学校は、バスをチャーターして送迎することにしており、子供達にドーム内で話す内容も、鴨方町になぜ大きな望遠鏡のある天文台が作られたか、その経緯や、どのような観測装置・機械があるか、また天文台で働く人たちがどのような仕事をしているのか、スペクトルとは虹である、分光器とは星の光から虹を作る機会である、星の虹を調べると何が分かるかなど、出来るだけわかりやすく説明しています。小学校4年生の学

習指導要領（理科編）に基づいて、星には明るさの違う星があること、星の色にも違いがあり赤い星、黄色い星、青い星があること、色が違うとどこがどう違うのかなど話し、星座については、星座の運行、四季の星座などと共に、いつ頃星座が作られ始めたか、その経緯、いつ頃今の88星座に統一されたか、太陽の通り道である黄道に12星座有ること、人は生まれた時どこの星座に太陽があったかにより自分の星座が決まることなど話しています。夜間の観測状態を再現するため、計算機制御により、ポインティングのデモを行い、大きなドームと望遠鏡が連動して動く様子を見せています。この後予め頂いていた質問を回答し、ドーム内でも質問に答えております。ドーム内での話す時間は、約40分ほどですが、この行事は先生方や子供さん達に大変好評で、のちの感想文では大変楽しかった、勉強になったなど喜んで頂いています。今年から矢掛町の教育委員会とも相談し、各小学校の4年生の生徒と先生をご招待して、鴨方町の小学校と同じ内容で説明を始めています。この行事は、出来るだけ多くの小学校に参加していただくよう、働きかけていく予定にしています。